ANTHOLOGIE
DU
CONTE FANTASTIQUE
FRANÇAIS

江苏工业学院图书馆
藏书章

ANTHOLOGIE DU CONTE FANTASTIQUE FRANÇAIS

Par Pierre-Georges CASTEX

Traduction par Yoshitaka UCHIDA

i

Anthologie du conte fantastique français.

Copyright by Librairie José Corti, 1987 France.

Published in Japan by Tohdo-sha, 1990.

P.—G.カステノクス 編
内田善孝 訳

ふらんす幻想短篇精集

冴えわたる30の華々

透土社

ブック・デザイン

羽良多平吉

book design Héiquiti HARATA

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ふらんす

幻想短篇

精華集

冴えわたる30の華々

上巻

目次

INTRODUCTION
序 —— 009

JACQUES CAZOTTE *Le Diable amoureux.* (Fragments)
ジャック・カゾット●恋する悪魔（抄）—— 019

CHARLES NODIER *Smarra ou les Démons de la nuit.* (Episode)
シャルル・ノディエ●スマラまたは夜の悪魔たち（挿話）—— 043

THÉOPHILE GAUTIER *La Cafetière.*
テオフィル・ゴーティエ●コーヒー沸かし —— 059

GAVARNI *L'Homme seul.* (Etude fantastique)
ガヴァルニ●一人暮らしの男（幻想習作）—— 075

EUGÈNE SÜE *La Vie vraie du capitaine Brulart.* (Episode d'Atar-Gull)
ユージェヌ・シュー●ブリュラール船長の真の人生（『アタル・ギュル』からの挿話）—— 089

SAMUEL-HENRY BERTHOUD *La Bague antique.*
S・—H・ベルトゥ●古代の指輪 —— 107

HONORÉ DE BALZAC *L'Eglise.*
オノレ・ドゥ・バルザック●教会 119

CHARLES RABOU *Le Ministère public.*
シャルル・ラブー●司法官 133

ABEL HUGO *L'Heure de la mort.*
アベル・ユーゴ●死期 151

PROSPER MÉRIMÉE *Les Ames du Purgatoire.* (Episode)
プロスペール・メリメ●煉獄(れんごく)の魂 (挿話) 163

GEORGE SAND *Spiridion.* (Episode)
ジョルジュ・サンド●スピリディオン (挿話) 173

VICTOR HUGO *Le Diable chiffonnier.*
ヴィクトール・ユーゴ●負篭(おいかご)をせおった悪魔 189

ALEXANDRE DUMAS *Le Bracelet de cheveux.*
アレクサンドル・デュマ●髪の毛の指輪 205

GÉRARD DE NERVAL *Le Monstre vert.*
ジェラール・ドゥ・ネルヴァル●緑の化け物 219

L'Obsession. (Fragment d'Aurélia)
●妄想 (『オーレリア』からの抄) 229

INTRODUCTION

序

理性が文学における権威を失って二百年が経過した。デカルトやボワローの時代には、不思議物語の体裁をとっていた文学作品においても、理性が注意深く監視していた。寓話、アレゴリー、伝説さえもが理性の支配のもとにおかれ、理性の意に適うよう強いられていた。この時代の悲劇のなかで劇的効果を引き起こしたり、強めたりする為に導入された夢物語について、それらは決して夢をみたことのない者たちによって作られたかのようであると、ノディエは言っている。ヨーロッパのロマン主義は革命的であり、我々はその変革の大きさについて未だはっきりと限界を知らず、全ての段階を終了した訳ではない。芸術家や作家はインスピレーションの新しい領域を求めて、乱れた感情生活、幻覚、想像力の眩暈に身をまかせ、人間についてこれまでもたれてきた考えを改めさせた。特に主観的体験にもとづく芸術の創造は、普遍的に理解されねばならないというこれまでの芸術の理想と一層対決を強めている。

想像力によって論理的な思考から造られたものが伝説であるなら、想像の孤独な放浪のなかで出会う幻を呼び起こして、不思議の世界を描いている独特な形式が幻想文学と言えよう。幻想文学は、夢、迷信、恐怖、後悔、神経または精神の過度の興奮、酩酊、そしてその他いろんな病的状態により生み出され、幻惑、不安、錯乱を糧とする。かっての時代に栄え、今また我々のこの現代の好みに合うように思われる。

外国の影響があまりにもしばしば強調されるこの領域において、フランスの才能は負けず劣らず豊かであることを示せれば、私としては幸いである。十八世紀にカゾットが幻想物語を短篇小説の形で書き始めたが、それは、短篇小説がその簡潔さと自然な流れにより、強烈な効果をあげるのに

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

最も適していたからである。一八三〇年頃になると、幻想文学が非常に流行し、読み心地がよく、深刻さのない物語が多く書かれた。深層心理を描くのに役立つようになるには、もう少し待たねばならなかった。ヴィリエの残酷さとモーパッサンの脅迫観念を、メリメの冷静に計算された巧みな手法と比較すれば、進歩の跡は歴然としている。ネルヴァルの例をみてみると、流行にのってさしたる考えもなくドイツの物語作家達を模倣していた初期のネルヴァルと、死期近くになって狂気に取り憑かれ、執拗に分析を続けるネルヴァルの間には驚くべき差がある。以後、作家は形相怪奇な霊を用いて風刺の才を示したり、自らの内部に住まう悪魔を払うかのように、それらを描いて自らの深層心理を明らかにしようとした。または、死期間ぢかのアポリネールのように、幻覚に満ちているページに自らの運命の影をなげかける者もいた。

この精華集は十八世紀の先駆者から最近の作家までの幻想文学の変遷をたどっている。一般的に、世紀が進むにつれて読者の要求は一層難しくなり、作家はインスピレーションをより自らの心のなかに求める。同時代人のあいだで話題となったホフマンの亡霊も、三十年後には、エドガー・ポーの心の奥に潜む、より強烈な不可思議に慣れ親しんだ世代にしてみれば、こけおどしにしか映らなかった。

というのは、恐怖はいつの時代にも、どこの国にもあるものだが、人間が無邪気さを失うにつれて、それを引き起こすのが難しくなったというだけのことである。今日の人間の想像力はきちんと現実に根づいた幻想にしか関心を示さず、非常に要求が難しくなってきている。作家はそうした想像力を引きつけなくてはいけない。このことは、事件を展開していくうえ

で、具体的な情報や現実的な詳細を与え、クライマックスですべて未解決の問題を一挙に晴らす探偵小説における謎の構成方法の流行を裏付けている。手法が陳腐になった幻想文学にあっては、不可思議が人をひきつける力をもてるのはこのようにしてのみである。

我々はあまりに慣れっこになってしまって、軽いタッチの不思議物語にはもはや魅力を感じられないのだろうか。私はそうは思わないし、幻想映画の最近の成功をみてもそのことが証明されている。実際、映像の力のお陰で、映画は言葉よりも、より簡単に幻覚を与えることができる。少なくとも上映時間のあいだ、無邪気な不思議物語が人をひきつけるのを可能にしている。しかし、作家達はこのような安易な効果ではもう満足できなくなっている。幸いにも、人間の深層心理の不可思議は汲み尽くされるどころではなく、シュールレアリスト達はこの事をよく理解していた。『アルゴルの城』の序で、ジュリアン・グラックは英国暗黒小説の亡霊を呼び起こし、現代の好みにあうように手を加え、十九世紀の幻想文学の伝統を今日に生かしている。異なる手法で創造されたとはいえ、カフカの作品についても同じ事がいえる。彼の物語中にある幻覚は現代人の不安の現れである。

私は幻想物語に未来はあると思う。商品のように恐怖を切り売りするいんちき作家ではなく、心理の深層まで探る才能ある作家によって洗練されれば、幻想文学は詩のように、論理的理性により解明できない人間の様相を表現することができる。例えば、私がとりわけこの精華集に入れたかった二人の作家をみればその事は歴然である。ネルヴァルの作品を読んだ時、そこに描かれている幻想が我々の心に引き起こす感動は、まずネルヴァル

自身によって体験され、そして書き残されたものである。また『虐殺された詩人』の最後の行を読めば、ギョーム・アポリネールがすでにそこで自らの死の予告をしているのがわかる。これらの二作品はカゾットのほほえましい物語とはなんとかけはなれていることか。妖精物語とほとんど同じようにして始まった幻想文学は今日にいたってその完成の域に達し、最もすぐれた作品は叙情詩または作家の日記にみられるのと同じ人間心理分析の資料としての価値がある。

P・—G・カステックス

――・［完全な形で作品を収録したつもりであるが、いくつかについてはその長さからすべてを掲載することができなかった。その場合には、独立しても理解しうる一部分を切り離して載せることにした。

今回は、生存中の作家を収録することをひかえたが、この場をかりてM・シュナイデル、A・P・ドゥ・マンディアルグ、J・—P・ブーケ、M・アンドロー、C・セーニオル等、幻想文学に新しい光彩を加えた作家達に敬意を表したい。二十世紀の幻想文学史を書くことはこれからの課題であろう。］

JACQUES CAZOTTE

1719 – 1792

Le Diable amoureux.

《 Fragments 》.

ジャック・カゾット

恋する悪魔

《 抄 》

ジャック・カゾット

一七一九——一七九二

カゾットは現代幻想文学の創始者といえる。彼以前には、同時代の他の作家達は超自然な物語を書くのに専心していた。モンテスキュウ、ディドロ、ヴォルテールとは異なり、カゾットは「自らが書いた寓話を信じる詩人であり、自らが作った伝説を信じる語り手であり、自らの心の中に生じた夢想を現実と思いこむ想像豊かな作家である。」と、ネルヴァルは述べている。

『千夜一夜物語』風の冒険しか描けていないときでも、彼の物語はこの純真さによって一種独特な雰囲気を醸し出している。彼の創造したいくつかのものは、詩的妖精物語の単純なおもしろみを越えている。長編である『恋する悪魔』では、同時代の神秘学者達が信仰の問題としていた信心を取り上げ、未知の世界と人間との関係をおもしろく描いている。この作品を書き始めたときからカゾットは神秘宗教の組織に入会したと、ある者は

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com